2017-04-26

Guo Shuxian

* **북핵문제**

<http://www.newsweekjapan.jp/stories/world/2017/04/25-8_1.php>

**25日に何も起こらなくても、北朝鮮「核危機」は再発する**

**25일에 아무것도 일어나지 않더라도, 북한 “핵위기”는 재발한다**

2017年4月24日（月）13時05分

[高英起 （デイリーNKジャパン編集長／ジャーナリスト）](http://www.newsweekjapan.jp/writer/dailynk/)

**＜米国も北朝鮮も強硬姿勢を見せ、緊張が高まっているが、現時点では両者とも決定的な局面に突入するつもりはないように思える。しかし、それで北朝鮮クライシスは終わらない。負の連鎖を断ち切るために必要なのは――＞**

明日4月25日は、北朝鮮の朝鮮人民軍（北朝鮮軍）の85周年だ。ドナルド・トランプ米大統領が北朝鮮に対する軍事的圧力を強める中で迎える記念日だけに、金正恩体制の出方に注目が集まっている。両者の本気度が試されるなか、双方になんらかの判断ミスが生じれば、一気に最悪の事態に突入する可能性もある。

#### 米国が北朝鮮を攻撃すれば日韓の被害は避けられない

**미국이 북한을 공격하면 일본/한국의 피해는 불가피하다**

北朝鮮に対する先制攻撃を示唆しながら圧力を強める米国に対して、北朝鮮も強硬姿勢で対応している。

15日に行われた金日成生誕105周年を祝う軍事パレードで、金正恩朝鮮労働党委員長の側近中の側近である崔龍海（チェ・リョンヘ）は、「米国が無謀な挑発をしかけるなら、朝鮮革命武力は即時、せん滅的な打撃を加え、全面戦争には全面戦争で、核戦争には朝鮮式の核打撃戦で対応する」と述べた。さらに、軍事パレードの翌日（16日）には、中距離弾道ミサイルの発射を強行した。

アメリカのNBCテレビは、トランプ政権の複数の高官が「北朝鮮が核実験を行うと確信すれば先制攻撃する用意がある」と話したと伝えた。さらに軍事パレードの前には、原子力空母カール・ビンソンが朝鮮半島に派遣されるという情報が流れていた。

本稿執筆時点では、両者のにらみ合いが続いている状況だが、北朝鮮軍創建日を前に、まさに今日にでも金正恩が核実験を強行すれば、緊張状態はレッド・ラインに一気に近づく。

こうした中、トランプが24日午前に、安倍晋三首相、中国の習近平国家主席とそれぞれ緊急の電話会談を行うと明らかにした。緊迫化する北朝鮮情勢について協議する見通しだという。電話会談で何が話されるのかは気になるところだ。とはいえ、先制攻撃も辞さない姿勢で臨んでいたトランプに対して、ここに来て「本当に攻撃できるのだろうか」という疑問も出つつある。

トランプの本気度を示す一つの根拠が、シリアへの攻撃だろう。アサド政権が化学兵器を使用したとしてシリアをミサイル攻撃したことにより、彼が主張する「力による平和」を世界に見せつけた。彼なら北朝鮮に対しても攻撃しかねないというイメージを植え付けた。一方、北朝鮮は相変わらず核・ミサイルを放棄する姿勢を一切見せていない。

しかし、筆者はよほどのことがないかぎり、「トランプは北朝鮮を先制攻撃できないだろう」という見方を示していた。その最大の理由は北朝鮮が「核保有国」だからだ。

北朝鮮は、米国を直接攻撃できるような核ミサイルを保有していないと見られている。ただし、5回の核実験を通じて核爆弾を持っていることはほぼ間違いない。核兵器も核関連施設についても全てが解明しているわけではない。

もし米国が北朝鮮を攻撃すれば、周辺国に甚大な被害が生じることは避けられない。同盟国である日本と韓国が核の報復を受ける可能性が大きくなる。

核の報復でなくとも、とくに韓国は通常火力による被害は避けられない。もちろん在日韓米軍、そして韓国に在住する15万人、日本に在住する5万人以上もの米国人が北朝鮮の脅威にさらされる。北朝鮮を攻撃することはシリアへの攻撃よりも、はるかにリスクが高いのである。

現時点で、両国に在住する米国人を避難させるような動きは見せていないことから、米国がいきなり北朝鮮を攻撃するのは現実的ではないと見られる。ただし、ここで厄介なのは、金正恩の側にもトランプは攻撃してこないだろうという目算があったと見られることだ。

13日、金正恩は平壌市内の高層マンション群「黎明（リョミョン）通り」の竣工式に現れた。こうした場に金正恩が現れるのは極めて異例だ。海外メディアを気にしたのか、それとも自分に対する攻撃に不安があったのか、落ち着きがなかったものの、15日には軍事パレードのひな壇で、最初から終わりまで軍事パレードを鑑賞した。

攻撃されるかもしれないという状況のなかで衆前に姿を現したということは、米国の攻撃はないと見ていたのか。それとも、米国を含む外国メディアが大挙押し寄せているなかで、攻撃できるものならしてみよという捨て身の姿勢なのか。

#### 金正日時代と今では「核戦略」に大きな違いがある

**김정일 시대와 지금은 “핵전략”에 큰 차이가 있다**

トランプと金正恩の姿勢をつぶさに見ていると、両者は決定的な局面に突入するつもりはないように思える。現状では、一時的に緊張は高まっているが、しばらく経つと、何事もなかったかのように通常の対立関係にもどる可能性が高い。

2013年に北朝鮮がいきなり休戦協定の白紙を宣言した時は、今回以上に緊張したが、しばらく過ぎると南北も米朝も通常どおり（緊張状態だが）にもどったのだ。

ただし、両者が判断ミスをすれば、事態が急展開する可能性は捨てきれない。例えば、トランプが軍事的圧力を強めれば強めるほど北朝鮮の態度は軟化すると思い込んで、このまま強め続ける。また、金正恩があくまでもトランプの圧力はブラフと見越して、核実験や長距離弾道ミサイルの発射実験を強行する──となると、両者共々、引き際を見誤り、緊張状態がエスカレートして、思わぬ展開に突入するかもしれない。または、偶発的な小規模な衝突が、状況悪化に拍車をかけるかもしれない。

また、この緊張状態が解けたとしても、問題が解決したわけではない。金正恩は25日前後の核実験やミサイル発射を見送ったとしても、遅かれ早かれ強行し、核武装国家に向けて着々と進んでいくだろう。その時、トランプは今回のように軍事的圧力をかけられるのだろうか。

なによりも今回の事態を通じて、金正恩が「やっぱり米国は攻めてこられない」という自信を深めるかもしれない。

金正日時代と金正恩時代における核戦略には大きな違いがある。父・金正日は、見返りがあれば核とミサイルを放棄することを想定していただろう。しかし、金正恩は米国を攻撃可能な「核武装国家」を目指している。核弾頭を搭載し、米本土に着弾可能な核ミサイルが完成すれば、今以上に米国は北朝鮮に手出しできなくなる。そうなれば、金正恩体制が続く限り、北朝鮮は日本に対して脅威を与え続ける国家となりうる。

断言するが、金正恩が核武装国を目指す限り、同じ事態は来年、または数年後に再発するだろう。そして、時が経てば経つほど金正恩にとって有利な環境が作られていく。この負の連鎖を断ち切るためには、理想論かもしれないが、金正恩体制が変革するしかない。

北朝鮮は、頂点に立つ指導者が全てを決定するという超独裁国家である。その姿勢を変えるためには、内部からの変革の要求とそれをサポートする外部からの働きかけが必要だ。

現在も、北朝鮮の民主化を目指す韓国の複数のNGOが、この命題に果敢にチャレンジしている。北朝鮮民衆の意識変化を促すために、硬軟織り交ぜた情報を北朝鮮国内へ流入させるなどの情報戦も展開している。その結果、多くの北朝鮮国民が海外の情報に接しながら、金正恩体制が極めてマズい方向へ進んでいるということをうすうす感じつつある。

しかし、その意識変化が政治的な動きへ発展するにはまだまだ時間がかかるだろう。こうした動きに周辺国、とりわけ日米韓が本気で取り組むことができるのか。それとも何年かに一度のサイクルで発生する北朝鮮クライシスを甘んじて受け入れるのか。

国際社会、とりわけ日本、米国、そして韓国は、時が経てば経つほど、ソフト・ランディングの可能性が低くなっている状況を冷静に認める時が来ている。そのうえで、脅威であり続ける北朝鮮にどう対峙するのか、本気で考えなければならない。

* **트럼프의 대북정책**

<https://cn.nikkei.com/politicsaeconomy/politicsasociety/24780-2017-04-20-10-16-50.html>

**美国对朝政策浮现三项方针**

**미국 대북정책 세 가지 방침이 나타났다**

2017/04/20 日本经济新闻

随着美国副总统彭斯访问日韩，特朗普政权在应对持续推进核与导弹开发的朝鲜方面浮现出三项方针。首先是对外显示全面行使武力的可能性，然后原则上摸索通过外交与和平手段解决的途径。还有便是通过对朝鲜有强大影响力的中国对朝鲜实现有效的经济制裁，促使其弃核。

**不放弃行使武力**

**무력 행사를 포기하지 않는다**

特朗普政权的最大特点是，为了促使朝鲜保持克制，向朝鲜近海派遣核动力航母等，对外展示“看得见的军事力量”。

美国4月6日打击叙利亚后，8日派遣航母卡尔·文森号向朝鲜半岛近海出发。甚至还向在阿富汗的极端组织“伊斯兰国”（IS）投下了大规模空爆炸弹（MOAB）。可以说这些行动传递出来的信息是，如果朝鲜进行新的挑衅越过了“红线”，将毫不留情地行使武力。

4月16日开始访问韩国和日本的彭斯警告称，“朝鲜不应该试探美国总统的能力和决心”。彭斯19日还访问了美国海军驻日横须贺基地的核动力航母罗纳德·里根号，宣布“战略性忍耐的时代已经结束”，强调将改变奥巴马政权的政策。针对朝鲜的挑衅表示，“将进行压倒性的、有效的反击”，进行了强有力的牵制。

**原则上和平解决**

**원칙상 평화롭게 해결한다**

不过，特朗普政权又表示“不会以看得见的形式划定‘红线’”（总统发言人斯派塞），并未具体提及什么才是“底线”。不过，有观点指出“底线”可以认为是朝鲜实施第六次核实验或将美国本土纳入射程的洲际弹道导弹（ICBM）发射。

朝鲜被认为会以4月15日的大规模阅兵式为契机发动新的挑衅。不过16日的导弹发射以失败告终，美朝的紧张关系也发生了微妙的变化。

4月17日，特朗普警告金正恩委员长“放规矩点儿”。日本首相安倍晋三也在当天的众议院决算行政监视委员会上指出，“通过外交努力保卫和平非常重要”、“为了让朝鲜认真响应对话需要施加压力”。

安倍与彭斯在4月18日的会谈中也把重点放在“和平解决（朝鲜问题）”上，彭斯19日在东京都内的酒店面向日美经济界的领袖人物发表演讲，强调“将与日本等同盟国以及中国展开合作，通过外交努力促使朝鲜彻底放弃核与导弹”。

**促使中国采取行动**

**중국으로 하여금 행동하게 한다**

特朗普政权一直强调对朝鲜采取“不同的手段”。意思是要通过作为朝鲜后盾的中国对其实施经济制裁。特朗普在与中国国家主席习近平的会谈中，改变了选举时强调的对华强硬政策，4月14日发布的美国汇率报告中也没有将中国认定为汇率操纵国。美国总统发言人斯派塞强调说，“中国正在朝鲜问题上发挥积极作用”。

中国通过响应美国的期待也能获得一定的利益。因为，朝鲜半岛的危机越严重，中国担心的终端高空区域防御系统（萨德，THAAD）的部署越会成为既定路线。

中国《人民日报》旗下的《环球时报》在4月19日的头版文章中就彭斯关于朝鲜半岛局势的发言表示了欢迎，称“美国反而放缓语气”。中国外交部发言人陆慷也在当天的记者会上评价说，“美国政府的一些官员近期围绕半岛局势，也作出过一些积极、建设性的表态”，一方面就朝鲜表示，“中方对近期朝鲜核导开发有关动向表示严重关切。我必须强调指出，当前半岛形势高度复杂敏感，中方坚决反对任何加剧对立紧张的言行”，对朝鲜可能继续做出挑衅行为进行了牵制。

不过，朝鲜并没有改变强硬的态度，美朝发生冲突的风险依然存在。如果中国对朝施压以失败告终，美国也可能真的采取军事措施。

美国副总统彭斯4月19日结束了为期4天的日韩访问，前往下一个访问国家印度尼西亚。